

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年11月12日

**【四半期会計期間】** 第59期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

**【会社名】** 株式会社トーカイ

**【英訳名】** TOKAI Corp.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 小野木 孝二

**【本店の所在の場所】** 岐阜県岐阜市若宮町九丁目16番地

**【電話番号】** (058)263-5111

**【事務連絡者氏名】** 取締役総務本部長兼経理本部長 堀江 範人

**【最寄りの連絡場所】** 岐阜県岐阜市若宮町九丁目16番地

**【電話番号】** (058)263-5111

**【事務連絡者氏名】** 取締役総務本部長兼経理本部長 堀江 範人

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第58期 第2四半期 連結累計期間	第59期 第2四半期 連結累計期間	第58期
会計期間		自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(百万円)	42,746	47,098	86,946
経常利益	(百万円)	3,117	3,424	7,082
四半期(当期)純利益	(百万円)	1,628	2,136	3,701
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,739	2,182	4,266
純資産額	(百万円)	37,686	41,900	39,990
総資産額	(百万円)	61,526	65,321	63,135
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	91.31	119.52	207.48
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	91.24	119.12	206.98
自己資本比率	(%)	60.9	63.8	63.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,460	3,090	4,954
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,956	1,593	4,017
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,397	1,248	2,451
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	11,594	12,229	11,980

回次		第58期 第2四半期 連結会計期間	第59期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	56.72	65.41

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、全てのセグメントにおいて前年同四半期比増収を達成し、過去最高を更新することができました。

「健康生活サービス」では、医療機関からのアウトソーシングを請け負う病院関連事業が売上を伸ばし、介護用品レンタルを行うシルバー事業においても増収となったことに加え、給食事業、クリーニング設備製造事業が好調であったことから、同セグメントは増収を達成しました。また、「調剤サービス」は、処方せん受付回数の増加・処方せん単価の上昇により増収を達成しました。さらに「環境サービス」においては、当期より同セグメントに属する連結対象子会社が1社増加したこともあり増収を達成しました。

利益面につきましては、新規案件及び資材更新に伴うレンタル資材購入費の増加、四国における病院リネン新工場の償却負担等がありましたが、工場の生産性向上によるコスト削減及び増収で吸収し、営業利益・経常利益も前年同四半期比増益、過去最高となりました。

また、特別利益では負ののれん発生に伴う利益の計上、特別損失では前年同四半期に投資有価証券評価損の計上をしており、四半期純利益についても前年同四半期比増益となり、過去最高を更新しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結経営成績は、売上高470億98百万円（前年同四半期比43億52百万円増、10.2%増）、営業利益32億87百万円（前年同四半期比2億93百万円増、9.8%増）、経常利益34億24百万円（前年同四半期比3億7百万円増、9.8%増）、四半期純利益21億36百万円（前年同四半期比5億8百万円増、31.2%増）となりました。

## 〔セグメント別状況〕

## 健康生活サービス

病院関連事業におけるPFI事業等新規契約の獲得による増収、シルバー事業における地域密着のきめ細かな営業展開・サービスの提供によるレンタル売上の堅調な伸びに加え、給食事業やクリーニング設備製造事業が好調であったことから、「健康生活サービス」は前年同四半期比増収となりました。利益面につきましては、新規案件に係る初期投資、資材更新に係るレンタル資材費の増加、四国における病院リネン新工場の償却負担等がありましたが、工場の生産性向上によるコスト削減及び増収で吸収し、前年同四半期比増益となりました。

売上高	234億25百万円	(前年同四半期比 13億38百万円増、	6.1%増)
営業利益	18億84百万円	(前年同四半期比 57百万円増、	3.2%増)

## 調剤サービス

105店舗の事業展開となり、当第2四半期2店舗、前期9店舗の新規出店効果により処方せん受付回数が増加したことに加え、処方せん単価が上昇したことから、前年同四半期比増収となりました。利益面につきましては、薬剤師等の人員増により労務費等が増加しましたが増収で吸収し、前年同四半期比増益となりました。

売上高	173億25百万円	(前年同四半期比 16億41百万円増、	10.5%増)
営業利益	16億93百万円	(前年同四半期比 1億78百万円増、	11.8%増)

## 環境サービス

当期より当セグメントに属する連結対象子会社が1社増加したことに加え、前期より本格参入した太陽光事業が順調に推移したことから、前年同四半期比増収増益となりました。

売上高	62億41百万円	(前年同四半期比 13億65百万円増、	28.0%増)
営業利益	3億38百万円	(前年同四半期比 35百万円増、	11.7%増)

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は653億21百万円であり、前連結会計年度末に比べて21億86百万円増加しております。これは、主にたな卸資産が1億78百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が6億97百万円、有形固定資産が10億63百万円増加したことが大きな要因となっております。

また、負債合計は234億20百万円であり、前連結会計年度末に比べて2億76百万円増加しております。これは、主に支払手形及び買掛金が1億84百万円並びに借入金が3億77百万円減少したものの、社債が8億54百万円増加したことなどによるものであります。

少数株主持分を含む純資産合計は、配当金の支払が3億3百万円あったものの、四半期純利益21億36百万円を計上したことなどにより、前連結会計年度末の399億90百万円から19億9百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末は419億円となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期と比べ6億34百万円増加し、122億29百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、30億90百万円(前年同四半期比16億29百万円増、111.6%増)となりました。これは、主に法人税等の支払額が減少したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は、15億93百万円(前年同四半期比3億62百万円減、18.5%減)となりました。これは、主に有価証券の純増減額の減少及び定期預金の払戻による収入の減少があったものの有形固定資産の取得による支出の減少があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は、12億48百万円(前年同四半期比1億48百万円減、10.6%減)となりました。これは、主に長期借入金の返済による支出が減少したこと等によるものであります。

#### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は、財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は、次のとおりであります。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針(以下「基本方針」)

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者(以下「方針決定を支配する者」といいます。 )の在り方について、基本的には、株主の皆様からの自由な判断に基づいた当社株式の自由な取引を通じて決定されるべきものであると考えており、上場企業として多様な投資家の皆様に株主となっていただき、そのさまざまな意見を当社の財務及び事業の方針の決定に反映させることが望ましいと考えております。

昨今のわが国の資本市場においては、経営陣の同意なく、会社支配権の取得を意図した株式の大量買付行為が増加しつつあり、このような買付行為の中には、当社及び当社グループの顧客、取引先、地域社会及び従業員等ステークホルダーの利益を著しく損なう蓋然性の高いものや、株主の皆様から十分な判断の時間や判断の材料を与えないもの等、当社の企業価値及び株主共同の利益に照らして望ましくない買付行為も想定されます。

当社は、このような買付行為を行おうとする者に対して、方針決定を支配する者となる機会を与えることは、株主の皆様からのさまざまな意見を当社の財務及び事業の方針の決定に反映させようとするにあたって望ましくないものと考えております。

#### 基本方針に関する取組み

##### (a) 財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組み

当社は、以下のような取組みにより当社の企業価値及び株主共同の利益を向上させることが、多様な投資家の皆様からの当社への投資につながり、結果的に、基本方針の実現に資するものと考え、これらの取組みを実施しております。

- ・ 事業特性及び事業の根幹に対する認識

当社は、昭和30年の創業時から快適な職場環境や住空間の創造、人々の健康の増進や福祉の向上に資することを目的に、社会に貢献できる企業を目指し50年以上にわたってさまざまな事業を展開してまいりました。現在では、医療機関や介護福祉施設等比較的体力が弱い方々が多く集まる場所で、各種の事業を展開しており、「衛生管理のプロ」としてその専門的な知識と経験を活かし、お客様にとって安心かつ安全なサービスの提供を心がけております。また、サービス業の基本は「お客様第一」に徹することと認識し、接客マナーに関する教育を徹底しております。このように、当社では事業の現場を最優先に考え、そこからお客様のニーズを的確にとらえて提供することで、当社のプレゼンスを向上させ、ひいては当社グループの持続的な企業価値の向上に努めております。

- ・ 顧客との連携及び協力体制

当社グループでは数多くの医療機関や介護福祉施設からさまざまな業務を受託しており、そのような機関や施設と一体となってその運営に携わっております。介護用品の貸与事業におきましても、全国に400社を超える提携店に介護用品を提供するとともに、ケアマネジャー様の信頼の下、ご利用者様に介護用品を貸与しております。そして、調剤薬局事業では、平成25年9月期末に105店舗を展開し、医療機関との緊密な連携を背景にして多くの患者様に薬を提供させていただいております。さらに、環境サービスを構成するリースキン事業でも、平成25年9月末時点で全国に1,200社を超える地方本部・代理店を有するフランチャイズ網を築いております。このような医療機関及び介護福祉施設や代理店との信頼関係は長い時間をかけて醸成してきたものであり、当社事業の根幹をなすものと考えております。

- ・ 事業環境に対する取組み

高齢者人口の増加を背景に医療に対する支出が増加し続け、国家財政にとって大きな問題となっており、厚生労働省は医療や介護にかかる費用を削減するために、法律や制度の改正を重ね、当社グループを取り巻く環境は厳しいといわざるを得ません。そこで、当社グループでは、医療機関や介護福祉施設から多様な業務を受託することにより、このような収益環境の土台をなす法制度改正の荒波を乗り越えております。つまり、一つひとつの事業を独立させるのではなく、複数の事業を有機的に結合させてサービスを提供することにより、当社グループの強みを際立たせ、ひいては企業価値の向上及び株主共同の利益の向上を図っております。

- ・ さまざまなステークホルダーとの緊密な関係

当社では、株主の皆様、顧客、取引先や従業員等さまざまな関係者からの、当社グループの事業特性へのご理解と事業そのものに対してのご協力を支えられて、これまで企業価値を高めるとともに、株主の皆様の共同利益の確保・向上に努めてまいりました。この長年にわたって築いてきた協力体制を維持・発展させることをベースに、当社グループの事業の運営を進めることが極めて重要であると認識しております。従いまして、引き続きこの協力体制を継続していくことが、当社グループの企業価値を最大化し、かつ株主共同の利益に資すると確信いたしております。

(b) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社取締役会は、基本方針に照らし不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの一つとして、当社株式の大量買付行為について一定のルールを設ける必要があると考えております。

そこで、平成25年5月10日に開催された当社取締役会において、当社の企業価値及び株主共同の利益を確保・向上させるための対応策として、当社に対する濫用的な買収等を未然に防止するため、「当社株式の大量買付行為への対応方針」を継続して導入することを決議し、平成25年6月27日開催の第58回定時株主総会において、承認をいただいております。

当社の取組みが、基本方針に沿い、株主共同の利益を害するものではなく、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて

(a) (a)の取組みについて

(a)の取組みは、いずれも、究極的には、当社株主共同の利益及び当社企業価値を向上させるための取組みであるため、これらの施策により、多様な投資家の皆様が当社へ投資することが期待できるという意味で、多様な株主の皆様のさまざまな意見の反映という当社の基本方針に沿うものであります。また、これらの施策は、当社の会社役員の地位の維持とは関係がありません。

(b) (b)の取組みについて

本方針の内容については、以下のような点から、基本方針に沿い、株主共同の利益を害するものではなく、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないものと考えております。

- ・ 議決権割合が20%以上となるような大量買付者に対して事前に大量買付情報の提供、大量買付行為の是非を判断する時間の確保及び代替案の提示を受ける機会を求めることによって、大量買付者の提案に応じるか否かについて適切な判断を可能にするものです。
- ・ 対抗措置が発動される場合を、大量買付者が予め定められた大量買付ルールを遵守しない場合や、当社の企業価値及び株主共同の利益を著しく損なうと認められる場合に限定しております。
- ・ 独立性の高い当社社外監査役及び外部の有識者を構成員とした独立委員会を設置し、対抗措置の発動を当社取締役会が判断するにあたって、独立委員会の勧告等を最大限尊重することとしております。また、当社取締役会において、必要に応じて外部専門家等の助言を得ることができるものとしております。このように、当社取締役会の恣意的判断を排除するための仕組みを備えております。
- ・ 本取組みは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に公表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」に定める三原則を充足しており、企業価値研究会が平成20年6月30日に公表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」に適合しております。また、デッドハンド型、スローハンド型の買収防衛策ではありません。

(5) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	57,000,000
計	57,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	18,020,673	18,020,673	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	18,020,673	18,020,673		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日		18,020,673		8,108		3,168



(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(有)小野木興産	岐阜県岐阜市九重町三丁目15番地	2,815	15.62
(株)大垣共立銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行(株))	岐阜県大垣市郭町三丁目98番地 (東京都中央区晴海一丁目8番12号)	710	3.94
(株)十六銀行	岐阜県岐阜市神田町八丁目26番地	705	3.91
岐阜信用金庫	岐阜県岐阜市神田町六丁目11番地	672	3.72
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	669	3.71
トーカイ共友会	岐阜県岐阜市若宮町九丁目16番地	668	3.70
小野木 孝二	岐阜県岐阜市	530	2.94
(株)北陸銀行	富山県富山市堤町通り一丁目2番26号	525	2.91
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	456	2.53
トーカイ従業員持株会	岐阜県岐阜市若宮町九丁目16番地	436	2.42
計		8,190	45.45

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 132,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,873,500	178,735	
単元未満株式	普通株式 14,273		
発行済株式総数	18,020,673		
総株主の議決権		178,735	

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式 数の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株トーカイ	岐阜県岐阜市若宮町九丁目16番地	132,900		132,900	0.73
計		132,900		132,900	0.73

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の変動は、次のとおりであります。

役職の変動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役 (生産本部長兼調達本部長)	常務取締役 (生産本部長)	樋口 政廣	平成25年7月1日
取締役 (総務本部長兼経理本部長)	取締役 (経理本部長)	堀江 範人	平成25年7月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,780	12,848
受取手形及び売掛金	12,283	12,980
有価証券	647	783
たな卸資産	<sup>1</sup> 3,842	<sup>1</sup> 3,664
繰延税金資産	869	941
その他	627	674
貸倒引当金	65	90
流動資産合計	30,986	31,802
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,310	10,486
機械装置及び運搬具(純額)	2,422	2,743
土地	8,935	9,769
その他(純額)	3,402	3,135
有形固定資産合計	25,070	26,134
無形固定資産		
のれん	47	32
その他	779	796
無形固定資産合計	826	828
投資その他の資産		
投資有価証券	3,453	3,656
繰延税金資産	604	632
その他	2,261	2,334
貸倒引当金	68	67
投資その他の資産合計	6,251	6,556
固定資産合計	32,148	33,519
資産合計	63,135	65,321
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,810	9,625
短期借入金	2,310	2,276
1年内償還予定の社債	100	238
未払法人税等	846	1,157
賞与引当金	1,278	1,350
役員賞与引当金	80	41
その他	4,015	3,588
流動負債合計	18,441	18,279
固定負債		
社債	250	965
長期借入金	750	406
繰延税金負債	30	117
退職給付引当金	1,343	1,401
役員退職慰労引当金	288	297
その他	2,040	1,953
固定負債合計	4,702	5,141

負債合計

23,144	23,420
--------	--------

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,108	8,108
資本剰余金	4,678	4,691
利益剰余金	26,440	28,273
自己株式	165	145
株主資本合計	39,062	40,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	690	729
繰延ヘッジ損益	5	3
その他の包括利益累計額合計	685	726
新株予約権	38	36
少数株主持分	204	209
純資産合計	39,990	41,900
負債純資産合計	63,135	65,321

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	42,746	47,098
売上原価	32,239	35,769
売上総利益	10,507	11,329
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 7,513	<sup>1</sup> 8,041
営業利益	2,993	3,287
営業外収益		
受取利息	13	14
受取配当金	38	41
その他	145	147
営業外収益合計	197	203
営業外費用		
支払利息	45	45
その他	28	21
営業外費用合計	73	66
経常利益	3,117	3,424
特別利益		
固定資産売却益	1	5
負ののれん発生益	-	111
その他	0	0
特別利益合計	2	117
特別損失		
固定資産除却損	25	6
投資有価証券評価損	183	9
その他	8	23
特別損失合計	216	39
税金等調整前四半期純利益	2,902	3,502
法人税、住民税及び事業税	1,120	1,344
法人税等調整額	147	17
法人税等合計	1,267	1,361
少数株主損益調整前四半期純利益	1,634	2,141
少数株主利益	6	5
四半期純利益	1,628	2,136

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,634	2,141
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	102	38
繰延ヘッジ損益	2	2
その他の包括利益合計	105	40
四半期包括利益	1,739	2,182
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,733	2,177
少数株主に係る四半期包括利益	6	5



## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,902	3,502
減価償却費	1,355	1,484
のれん償却額	56	14
負ののれん発生益	-	111
貸倒引当金の増減額(は減少)	12	14
賞与引当金の増減額(は減少)	17	51
役員賞与引当金の増減額(は減少)	36	38
退職給付引当金の増減額(は減少)	81	55
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	2	146
受取利息及び受取配当金	52	55
支払利息	45	45
固定資産除却損	25	6
投資有価証券評価損益(は益)	183	9
売上債権の増減額(は増加)	138	380
たな卸資産の増減額(は増加)	286	179
仕入債務の増減額(は減少)	201	257
その他の流動負債の増減額(は減少)	81	506
その他	65	138
小計	4,183	4,004
利息及び配当金の受取額	48	51
利息の支払額	37	40
法人税等の支払額	2,734	925
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,460	3,090
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	1,050	866
定期預金の払戻による収入	1,470	1,062
有価証券の純増減額(は増加)	599	-
有形固定資産の取得による支出	2,275	1,047
投資有価証券の取得による支出	600	86
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	235
貸付けによる支出	73	271
貸付金の回収による収入	95	135
その他	123	282
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,956	1,593

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	70	235
長期借入れによる収入	80	70
長期借入金の返済による支出	827	412
社債の償還による支出	50	119
配当金の支払額	267	303
割賦債務及びリース債務の返済による支出	272	276
その他	11	27
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,397	1,248
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	0
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,895	248
現金及び現金同等物の期首残高	13,490	11,980
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 11,594	<sup>1</sup> 12,229

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	
(連結の範囲の重要な変更)	
第1四半期連結会計期間より㈱ビルメンは、連結子会社㈱ティ・アシストが全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
商品及び製品	2,578百万円	2,598百万円
仕掛品	56	110
原材料及び貯蔵品	1,207	955
計	3,842	3,664

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
給料手当	2,778百万円	2,932百万円
賞与引当金繰入額	646	671
役員賞与引当金繰入額	40	41
退職給付費用	125	119
役員退職慰労引当金繰入額	13	17

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金	12,444百万円	12,848百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	850	754
有価証券勘定に含まれるマネー・マネジメント・ファンド		134
現金及び現金同等物	11,594	12,229

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	267	15.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月2日 取締役会	普通株式	267	15.00	平成24年9月30日	平成24年12月7日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	303	17.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月1日 取締役会	普通株式	286	16.00	平成25年9月30日	平成25年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	健康生活 サービス	調剤 サービス	環境 サービス	計				
売上高								
外部顧客への売上高	22,087	15,684	4,875	42,647	98	42,746		42,746
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18	0	206	225	1	226	226	
計	22,106	15,684	5,081	42,872	100	42,973	226	42,746
セグメント利益	1,826	1,515	303	3,644	11	3,656	662	2,993

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報提供事業を含んでおりません。

2 セグメント利益の調整額 662百万円には、セグメント間取引消去11百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 673百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	健康生活 サービス	調剤 サービス	環境 サービス	計				
売上高								
外部顧客への売上高	23,425	17,325	6,241	46,992	106	47,098		47,098
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19	0	203	223	2	225	225	
計	23,445	17,325	6,444	47,215	108	47,323	225	47,098
セグメント利益	1,884	1,693	338	3,916	29	3,945	658	3,287

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報提供事業を含んでおりません。

2 セグメント利益の調整額 658百万円には、セグメント間取引消去13百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 672百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「環境サービス事業」セグメントにおいて、平成25年4月1日付の株式取得により、(株)ビルメンを当社の連結子会社である(株)ティ・アシストの完全子会社とし、連結の範囲に含めました。当該事象により、当第2四半期連結累計期間において負ののれん発生益111百万円を計上しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	91円31銭	119円52銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	1,628	2,136
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,628	2,136
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,833	17,876
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	91円24銭	119円12銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	14	60
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成25年11月1日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額..... 286百万円

(ロ) 1株当たりの金額..... 16円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日..... 平成25年12月6日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月11日

株式会社トーカイ  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 水 上 圭 祐

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 河 嶋 聡 史

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社トーカイの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社トーカイ及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。